

き

齒音にして單子音の一つ。

きの濁音。

き き き
木。樹(名)

〔一〕植物中幹、根、葉を有し二年以上生存するものの總名。〔二〕木の幹の削りたるもの。材木。

き
氣(名)

〔一〕空氣。●大氣。●氣候。〔二〕いき。●呼吸。〔三〕心。●魂。●心地。〔四〕様子。●模様。●けしき。●けはひ。〔五〕二十四氣を見よ。

き
綺(名)

古代織物の名。地を薄く織りたる錦。

き
季(名)

〔一〕其時候の終の月。……陰曆にて三月(春の終)六月(夏の終)九月(秋の終)十二月(冬の終)の稱へ。〔二〕時候。春夏秋冬の稱へ。〔三〕和歌俳諧にて春夏秋冬の景物を主とする題。……戀、雜に對して。

き
記(名)

〔一〕事實の儘を書きたる文。〔二〕特に書名。古事記の略。

き
紀(名)

〔一〕天皇の御代に分ちて書きたる歴史。〔二〕時代。〔三〕特に書名。日本紀の略。

き 期(名)

〔一〕限りたる時。〔二〕終りの時。〔一〕よき時。●よき場合。〔二〕機械。●かくり。

き 器(名)

〔一〕うつば。●器具。〔二〕其任に堪ふる才能。

き 奇(名)

〔一〕不思議。●奇妙。〔二〕普通ならぬ事。●人並にはづれたる事。

き 騎(名)

馬に騎る事。又は其乗りたる人。

き 忌(名)

〔一〕物忌み。〔二〕忌服。〔三〕死者の命日。

き 己(名)

十千の第六番。●つちのこ。

き 榮(名)

十千の第十番。●みづのこ。

き 城(名)

古へ一搦へに爲りたる地を云へる詞。〔一〕宮城。●皇居。〔二〕稻城。〔三〕墓地。〔四〕しろ。●城郷。●壘。

き 杵(名)

杵に同じ。

き 酒(名)

酒に同じ。

き 葱(名)

葱に同じ。

き 寸(名)

〔一〕古代の尺度の目。今の寸に當たる。〔二〕馬の四尺以上に餘れる寸位を度る時の詞。……一きさいへば四尺一寸、二きさいへば四尺二寸の類。

き 牙(名)

牙に同じ。

き 黄(名)

色の名。五色の一つ。山吹菜種などの花に似たる色。

き 生(形)

生れたまゝの。●純粹の。○「生娘」「生酢」「生木綿」

き (助動。持狀)

過去の詞。○「昔し桓武天皇と申す帝おはしましき」

き 義(名)

「一」義理。●正道。「二」意味。●わけ。「三」談義。●說法。○源氏「阿閼梨も障子おろして義など言はせ給ふ」「四」相談づくの身内。○「義兄弟」

き 儀(名)

相談。●請合。●議事。

き 儀(名)

「一」禮儀。●儀式。「二」事。○「小生儀」此儀に於ては」

き 技(名)

技術。●藝能。

き 妓(名)

藝妓。●娼妓。

き 祇(名)

地の神。●國つ神。

き 奇(名)

不思議。●奇怪。

き 戸(名)

戸などの開く音。△(副)「ぎいと」。

き 黄(名)

黄色(名) 黄なる色。

き 黄(名)

黄色興(名) 黄色漆にて塗りたる興。

きいろし

黄色し(形。形狀言ク活) 黄色である。

きいぞ

生糸(名) 繭より取りたるまゝの絹糸。

きわん

議院(名) 會議のために設けたる家。

きろん

議論(名) 事の當否を議し論ずる事。△(動)議論す。

きらふり

生蠟(名) 原料より取りたるまゝの蠟。

きらふそく

生蠟燭(名) 混合物の無き蠟燭。

きろく

記録(名) 事實を書き付くる事。又は其書き付けたる文書。

きろくし

記録所(名) 官廳の名。天下の訴訟を決断するところ。官吏は上卿、辨、開闔、寄人。

きは

牙(名) 口の左右に對列上下交又せる最も鋭利なる齒。

きは

木場(名) 材木の置き場。

きは

騎馬(名) 馬に騎る事。

きはちす

木蓮(名) 木槿の一名。

きはる

氣張(自動四段) 張氣になる。●奮發する。

きはらし

氣晴(名) 鬱したる氣を晴らす事。●氣慰み。●心やり。●鬱散。

きはん

羈絆(名) 「一」牛馬を縛り繋ぐ繩。「二」身又は心の自由にならぬ事。

きはん

歸帆(名) 帆を上げて歸り來る船。●歸船。

きはん

軌範(名) 手本。●模範。

きはむ

黄(自動四段) 黄色を帶ぶる。●黄色になる。

きはん

偽版(名) 偽せて作りたる版木。又は之にて印刷せし書類。

きはむちまひ

黄病(名) 皮膚の黄色になる病の名。黄痘。(和名抄)

きはやし

氣早(形。形狀言ク活) 氣短し。●輕々し。●輕卒である。

きにな

忌日(名) 命日。

きにな

貴人(名) 位の貴き人。●身分の高き人。

きぼ

記簿(名) 簿記に同じ。

きぼ

規模(名) 「一」模範。●手本。「二」構造。●設計。

きははふり

記簿法(名) 簿記を用ふる一種の術。

きはほう

既望(名) 陰曆十六日の夜。

きはほう

希望(名) 願望。●願望。△(動)——希望す。

きほうれき

儀鳳曆(名) 曆の一種。持統天皇の時元嘉

曆の後に用ひられしもの。

きばうし

擬寶珠(名) きはしに同じ。

きぼく

龜卜(名) 龜の甲を燒きてする占。●かめうら。

きぼし

擬寶珠(名) 「一」欄干などの上に付くる尖りたる玉の形。「二」草の名。葉は柄長くして先

にて廣がり花は薄紫にて蕊の如く軸に並び咲くもの。

きへい

騎兵(名) 馬に乗りたる兵士。

きへい

義兵(名) 義のために戦ふ兵隊。

きへん

木偏(名) 漢字の偏の名。梅、柳、櫻などの文字の左の半分。

きど

歸途(名) 歸り道。●歸路。

きど

「一」忽ち。●忽然と。●や。●や。○竹

取「御與を寄せ給ふに此やうや姫きと影になりぬ」「二」暫く。●ちよいと。○字治暗

きど

城戸。木戸(名) 「一」城の門。「二」路次の出入口。

「三」金を取りて入をえる。興行場の入口。

「四」興行場の木戸にて取る見料。●木戸錢。

祈禱(名) 神佛に祈る事。△(動)——祈禱す。

きたう

貴客(名) 他人に對して云ふ詞。御返事。●貴客。

きたふり

儀同三司(名) 三公三司と同じ待遇を受

きどろさんし

くる資格の人。●准大臣。

きやく

危篤(名) 病の差し重る事。

きやく

貴徳(名) 雅樂の曲名。

きやく

奇特(名) 「一」不思議なる神佛の靈驗。「二」感賞すべき事。

きやく

(副) たしかにく。●必ずく。○著聞唯々内裏へきこ参らせ給へ。なほきこくといひけりし。

きち

吉(名) よき事。●めでたき事。

きち

木地(名) 「一」木材の本質。「二」木材の本質の隠れぬ様に作りたる器具。……塗物などに對して云ふ。

きちにち

吉日(名) 「一」曆の上に表はれたるよき日。「二」日を祝ひて云ふ詞。

きちがひ

氣違(名) 精神亂れて物事の分別の付かぬやうになる病氣。又は其病に罹かりたる人。

きちよ

貴女(名) 「一」貴人の女。「二」婦人の尊稱。

きちよ

鬼女(名) 「一」女性の鬼。「二」鬼の如く無慈悲醜惡なる女。

きちや

几帳。木丁(名) 古へ貴婦人の側に立て置きて男女對話の時直接に其顔を見るを得ざ

らしむる具。木

の骨に絹帷子な

掛けたるもの。

其高さ三尺のも

のを三尺の几帳

さいふ。(副)

歸朝(名) 外國より本朝に歸る事。

△(動) 歸朝す。

議長(名) 會議の長さなりて議

場を整理する人。

秘杖(名) さつちやうに同じ。

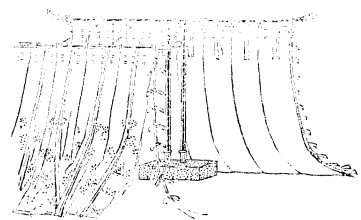
議場(名) 會議を開く場所。

儀仗(名) 重大なる儀式を護衛する爲めの兵。

きちや 几帳。うじやく 凡帳尺(名) 古へ几帳を作るに用ひたる尺度。今の曲尺にあたる。

きちれい 吉例(名) 祝ふべき慣例。●嘉例。

きちん 木賃(名) 「一」旅宿にて拂ふ薪代。「二」薪代のみにて泊る下等の宿泊法。



きらん

歸陣(名) 陣屋へ歸る事。△(動)―歸陣す。

きらんやど

木質宿(名) 木賃のみにて旅人を宿せしむる家。

きちやく

歸着(名) 元の場所へ歸り着く事。△(動)―歸着す。

きちかう

桔梗(名) 草の名。ききやう。……和歌には多くあきちかうのきちかうなど近くの字に

言ひ掛け隠語にして用ふ。

きちう

忌中(名) 忌にて引籠り居る間。

きちう

羈中(名) 旅行先に滞在して居る間。

きちじ

吉事(名) めでたき事。●祝ひ事。

きちじやう

吉上。吉祥(名) 衛士などの類の下吏。貞丈雜記に曰く「吉祥又吉上さくは假字にて黄仕丁なるべし。黄色は無位の服色。仕丁は召使の名なり。無位にて黄なる服衣を着る下部の事。」

きちじやう

吉祥(名) 吉事に同じ。

きちじやう

吉上(形) 大吉。●上吉。

きちじやう

吉祥天女(名) 天女の名。帝釋

きちじやう

の女にて端嚴美麗なるもの。

きちじやう

めでたき事の起る前兆。●瑞兆。

きちじやう

吉端(名) めでたき事の起る前兆。●瑞兆。

きり

桐(名)

木の名。葉は朝顔に似て大きく幹は内部に小さき穴あるもの材軽くして濕氣を防ぐがため諸種の用に供せらる。

きり

錐(名)

穴を穿つための具。先の鋭利なる刃物に木の柄を付けたるもの。

きり

霧(名)

烟の如き水蒸氣の濕氣を含みて顯らばるもの。

きり

切(名)

「一」切る事。「二」切り又は分ちたるもの。「三」終り。●終結。

きり

義理(名)

「一」人の踏むべき道筋。「二」交際上の正しき方法。

きりいきけ

希臘教(名) 舊教の一派にておもに歐洲東部に行はるもの。(基督教)

きりはたりち

切花(名) 枝を切りたる花。

きりはな

切箔(名) 四角なる形に切りて押す金銀箔。

きりはく

切端(名) 切りたる物の端。

きりはし

切戸(名) 「一」一枚にて開閉する引戸。「二」能舞臺にて地謡の出入する一枚戸の口。

きりど

切通(名) 山岩など切り開きて通じたる道

きりどほし

路。

きりうたい

切燈臺(名) 燈臺の一種。白木にて上は



十文字に組み合はせ臺は四方の角を取りたるもの。(圖)

きりぬく

切抜(他動四段) 「二」物の一部分だけを切り

て取る。「二」敵に圍まれたる中より抜け出づる。

きりかく

切掛(他動下二段) 切り付くる。●切つて掛

ける。

きりかけ

切懸(名) 板扉の類。(源氏)

きりかぶ

切株(名) 木を伐りたる跡の根の部分。

きりがみ

切紙(名) 全紙を二つ切にしたる紙。—命令、傳授の文書などに用ふ。

きりよ

羈旅(名) 旅。

きりやリヨウ

器量(名) 「二」其任に堪ふべき才能。「二」容貌。

きりやリヨウ

伎倆(名) 事を成し遂ぐる力。●わざまへ。

きりよく

氣力(名) 元氣。●勇氣。

きりたちびど

切斷人(名) 切り斷ちたる如く疎遠になりたる人。

きりたて

切立(名) 鞆の掛かりにいふ詞。根無き木を

きりため

切り立て、四本掛かりにしたるもの。

きりつ

軌律(名) 掟。●規則。

きりつぽ

桐壺(名) 古代禁中五舎の一つ。淑景舎の一名。

きりん

麒麟(名) 想像動物の名。馬、牛、鹿などの長所を盡がきて構造したるもの。

きりむぎ

切麥(名) 食物の名。小麥の粉を索麵の如く細く切りたるもの。

きりうり

切賣(名) 一部分づゝ物を分けて賣る事。

きりくひ

伐杭(名) 切株に同じ。

きりくち

切口(名) 物を切りたる口。

きりふ

切斑(名) 「二」鷺の羽にある白黒切れ分れの斑文。「二」之にて作れる矢の羽。

きりこ

切籠(名) 四角なるもの、角を切り取りたる形。

きりこごろう

切籠燈籠(名) 切籠形に作りて裝飾を加へたる盆燈籠。

きりあふ

切合(自動四段) 刀にて互に戦ふ。

きりあぐ

切上(他動下二段) 終にする。●終結にする。

きりぎりす

切割(名)

軍陣用旗幟の一種。

鋸の目の如く切り割きたる

もの。(圖)



きりぎりす

霧雨(名)

霧。●霧の如き雨。

きりぎりす

蓋(名)

虫の名。「一」形蝗に似て大きく秋

の初頃野にて鳴くもの。……古へこほろき

と稱へしは是なり。「二」古へきり／＼すと

稱へしは今いふこほろきの事。「三」神樂歌

きりぎりす

切岸(名)

崖の直立して切りたるが如きも

きりぎりす

寄留(名)

本籍は生國にありて暫く他國に住

きりぎりす

する事。△(動)——寄留す。

きりぎりす

切身(名)

食品の名。魚肉などの小さく切りた

きりぎりす

するもの。

きりぎりす

切支丹(名)

近古の末より徳川時代の末ま

きりぎりす

で基督教を我國にて舊く呼びたる名。その

きりぎりす

頭入り來りしは天主教に屬す。

きりぎりす

希臘教(名)

きりいき教に同じ。

きりぎりす

霧島(名)

霧島躍の略。

きりぎりす

霧島躍(名)

躍の一種。夏の初

きりぎりす

きりぎりす

きりぎりす

きりしきみ

切櫛(名)

頭小さく美しき深紅の花咲くもの。

きりしきみ

枝を切りたる櫛。佛に奉る料の

きりび

鑽火(切火(名))

火。「二」火鑽にて打ち出だしたる

きりび

火。「二」火打にて打ち出だしたる火。

きりび

きりもの(名)

きりものに同じ。

きりび

桐火桶(名)

「一」桐の木にて造りたる火

きりび

桶。「二」藤原俊成の和歌の風體を呼びたる

きりび

名。此人歌ふむ時は常に王座して桐火桶を

きりび

かへつゝ案じたりといふ。

きりび

霧深(名)

深山霧深き處の木の枝に藻の如く垂

きりび

れ下る一種の苔。

きりび

切盛(名)

「一」食物の調理。「二」萬事の處置。

きりび

斗籠を以て權勢ある人。

きりび

基督教(名)

基督の名。耶穌基督を祖

きりび

とするもの。最も多く歐米各國に行はれ現

きりび

今は新舊の二派に分れたり。

きりび

切炭(名)

鋸にて引切りて用ふる炭。

きりび

絹(名)

織物の名。絹糸にて織れるもの。……昔の

きりび

絹には長絹平絹細絹鹿絹の四品あり。

きりび

衣(名)

「一」寒暑を防ぐ爲めに身に着くるもの。

●着物。●衣服。●ころも。「二」五つ衣。

きぬいこ

絹糸(名)

蚕より取りたる糸。

きぬはり

絹張(名)

絹布にて張る事。又其張りたるもの。

きぬぢ

絹地(名)

絹の地。書、畫、表装などに用ふる詞。

きぬぢぢみ

絹縮(名)

絹織物の一種。縮に作りたる絹布。

きぬおり

絹織(名)

絹糸にて織る事。又は其織物。

きぬかつぎ

衣被(名)

食品の名。皮のまい茹でたる干半。皮をむき臍を附けて食す。

きぬかつぎ

衣被(名)

「一」頭より着るやうに作りたる衣服。昔し貴婦人の外出する時顔を隠す爲めに用ひたるもの。●かつぎ。「二」衣かつぎ

なしたる女。●貴女。

きぬがさ

衣笠(名)

昔し天皇

出御の時

差し掛け

奉りし柄の長き笠。淺黄などの絹にて張りたるもの。(圖)



きぬた

碓。砧(名)

衣板の意。○衣服の材料を打つため

の臺。横に渡したる棒に絹布などを巻き付け槌にて一人又は二人して打つもの。

きぬや

絹屋(名)

帷舎の一名。

きぬけ

氣抜(名)

氣の抜ける事。●うつこりする事。

きぬこしどらふ

絹漉豆腐(名)

食品の名。絹袋にて絞

きぬきぬ

(名)

密會せし男女の別れ。○相接したる衣

きる

霧(自動四段)

霧が立つ。●霧の如くに霞む。

きる

鑽切(他動四段)

摩擦の方によりて發火せしむる。●火を打ち出す。

きる

切(他動四段)

「一」一つの物を二つにする。●分

つ。●離す。「二」中止する。●終結にする。「三」刃物にて傷つくる。

きる

切(自動下二段)

「一」一つの物の二つになる。●

分る。●離る。「二」中絶する。●無くなる「三」刃物の傷を受くる。

きるわ

着(他動一段)

身に被ふ。●着用する。

きほひうま

競馬(名)

けいば。

衣類。

きおち

氣落(名) 落膽。●失望。

きなり

木折に(副) 木を折りたる如く無骨に。○盛衰「田舎侍の木折に、こぼしかりけるがし」

きほふ

競(自動四段) 競争する●我劣らじと氣張る。

きわう

既往(名) 過去。●こしかた。

きおく

記憶(名) 物覚え。●物覚えのよき事。△(動) 記憶す。

きおくれ

氣後(名) 氣の臆して進まぬ事。

きは

際(名) 「一」物の極まりたるところ。●はて。「二」區別。●境目。●目立つ點。「三」ほど。●頃。●近邊。●時分。「四」身分。●分際。

きははなる

際離(自動下二段) 際立つ。○源氏「此樂ほのかなる女たちの御中に彈きまぜたらんに際離るゝくこそ覺えれ」

きわり

木割(名) 矢の根の一種。樫、一位などの木にて周りに四寸長さ六寸位に杵の先の如く作り之を矢に箆めて舳、楯板など射割るに用ふるもの。

きわた

木綿(名) 草の名。葉は朝顔に似て黄色の花咲き。實は充分熟する時綿を吹くもの。之を製して日用用ふる木綿綿とす。

きわた

生綿(名) 木綿より取りたる綿。

きはた

黄蘗(名) 木の名。花は黄色にして小さく葉は臭氣あり。皮と實とは薬品として用ひらる。

きはたかに

際高に(副) 際立ちてけ高く。○續世繼「御心ばへの際高におはしけるにや」

きはたつ

際立(自動四段) 一層目立つ。●角立つ。際猛(形。形狀言ク活) 際立ちて猛し。●際立ちて強し。(雅)

きはたけし

きはなし

際無(形。形狀言ク活) 限なし。(雅) 極。窮。突(他動下二段) 「一」極る所まで事を進むる。●研究する。「二」定むる。●きめる。

きはやか

際立つ有様。●きつぱり。(形) きはやくなる。(副) きはやかに。

きはまる

極(自動四段) 「一」果さなる。●終る。●盡く。「二」定まる。●きまらる。

きはぎは

際際(名) 程々。●身分々々。

きはめ

極(名) 「一」きはみ。●極點。「二」終り。●最期。「三」鑑定。

きはめて

極めて(副) 「一」定めて。●必ず。「二」くく。●至極。

きはりみ

極(名) 「一」極まりたるところ。●極點。●極

端。(二)終り。●最期。

きか

麾下(名)

大將の指揮の下に屬するもの。●旗下。

きかい

器械(名)

器具。●道具。

きかい

機械(名)

人力を省かんが爲めに諸種の力を應用して巧に構造せられたるもの。●しかけ

にしたるもの。

きが

氣概(名)

「(一)世の爲めに憂ふる精神。(二)一

個人の意氣。

きかは

黃土器毛(名)

馬の毛色の名。赤みを帶び

たる黄色。

きかつ

饑渴(名)

饑と渴と。

きかん

龜鑑(名)

手本。●模範。●軌範。

きかん

饑寒(名)

饑と寒と。

きがむ

牙齒(自動四段)

齒齧をする。●牙を齧み合は

せて獸の戦はんとする。(雅)

きかふ

着替(他動下二段)

着たる衣を取り替ふる。

ぎがく

伎樂(名)

古代音樂の一種。推古天皇の頃百濟

國より渡來して奈良朝頃まで行はれたるもの。後世までも奈良の東大寺には傳へたり。

●吳舞。

きかく

聞(他動)

聞くの延音。○萬葉「夕さらす蛙な

きかくに

(副)

「(一)聞く故に。●聞いて居るから。○

萬葉「時鳥の去年の初聲あきざりし人のき

かくにまづも鳴かなん」(二)聞くのに。●

聞にも拘はらず。○後撰「獨寝る人のきか

くに神無月俄にも降る初時雨かな」

きかへ

着替(名)

着替ふる料の衣服。

き

居(名)

居る場處。●住

き

裾(名)

東帶に下襲を略

して着ざる時其

裾の形を作りて

腰に結び長く後

に曳き垂らすも

の。(圖)

「(一)偽。●虛言。(二)空虛。

事を起す事。●行ふ事。

うな。……料理にいふ詞。

尊敬形容詞。……多くは漢語より來れる詞

にて神聖嚴格なる意味の時に用ふるもの。



○「御製」御衣「御盃」

ぎふ 御衣(名) 天皇の御衣服。

ぎふ 御意(名) 「一」思召。●御心中。「二」仰せ。●御命。

ぎふ 巨擘(名) 「一」親指。「二」頭さなるもの。●首領。

ぎふ 魚肉(名) 魚類の肉。

ぎふ 舉動(名) 振舞。●座作進退。●作法。

ぎふ 魚燈(名) 魚燈油の略。◎魚より取りたる燈油。

ぎふ 距離(名) へだり。●遠近。

ぎふ 魚綾(名) 織物の名。斜子の古名なりともいひ。又は魚浪の意にて魚に浪を織りたるものなりとの説もありて詳ならず。○平治「ぎよりょうの直垂」

ぎふ 漁獵(名) 魚をすなぐる事。●れふ。

ぎふ 魚鱗(名) 「一」魚の鱗。「二」魚鱗の並びたるが如き陣の排列方。○

「魚鱗鰭翼」「三」鰭の札の名。魚鱗を並べたる形。(圖)

ぎふ 魚類(名) 魚の總名。

ぎふ 漁翁(名) 漁夫。……老人にいふ。

ぎふ 魚類(名) 魚の總名。

ぎふ 漁夫(名) 漁夫。……老人にいふ。

ぎふ 魚類(名) 魚の總名。

ぎふ 漁夫(名) 漁夫。……老人にいふ。

ぎふ 魚類(名) 魚の總名。



ぎか 許可(名) 免許。●認可。△(動)―許可す。

ぎか 漁家(名) 漁人の住む家。

ぎか 漁歌(名) 漁人の詠ふ歌。

ぎか 御感(名) 天皇の御感賞。

ぎか 清書(名) 清書に同じ。

ぎか 魚袋(名) 御襖、内宴臨時祭の時、石帯の右の方に着くる一種の裝飾品。……三位以上は白鯨の地に金製の魚を附く。之を金魚袋といふ。四位以下は同じやうに銀にて造る。之を銀魚袋といふ。(圖)

ぎか 御襖、内宴臨時祭の時、石帯の右の方に着くる一種の裝飾品。……

ぎか 三位以上は白鯨の地に金製の魚を附く。之を金魚袋といふ。四位以下は同じやうに銀にて造る。之を銀魚袋といふ。(圖)

ぎか 許諾(名) うその断。

ぎか 御簾(名) ゆるし。●承諾。

ぎか 去年(名) 天皇の御前に懸りたる御すだれ。

ぎか 清 清き有様。(形)―清らなる。(副)―清らかに。去る事と來る事と。●ゆきい。

ぎか 清 清らに同じ。(形)―清らくなる。(副)―清らかに。

ぎか 清 清らに同じ。(形)―清らくなる。(副)―清らかに。

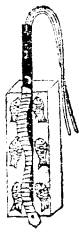
ぎか 清 清らに同じ。(形)―清らくなる。(副)―清らかに。

ぎか 清 清らに同じ。(形)―清らくなる。(副)―清らかに。

ぎか 清 清らに同じ。(形)―清らくなる。(副)―清らかに。

ぎか 清 清らに同じ。(形)―清らくなる。(副)―清らかに。

ぎか 清 清らに同じ。(形)―清らくなる。(副)―清らかに。



ぎらんくんとん

魚濫觀音(名) 觀世音の一體、魚

に乗りて渡海する像を畫ぐもの。

きよむ

清(他動下二段) 清らかにする。●不潔を無く

する。

きよう

器用(名) 物事に巧なる事。●手き。△(形)―

器用なる。(副)―器用に。

きよう

興(名) 面白み。●愉快。●趣味。

きよう

凶(名) 吉の反對。めでたからぬ事。●不吉。

きやきよう

經(名) 佛經の書籍。●佛書。

きやきよう

京(名) 「一」都。「二」西京。

きやきよう

郷(名) 里。●村。

きやきよう

卿(名) 「一」一省の長官。○「宮内卿」「大藏

卿」「二」三位以上の人の尊稱。○「俊成卿」

「定家卿」

きやきよう

饗(名) ふるまひ。●饗應。

きやきよう

香(名) 將基の駒の名。香車の略。

きやきよう

境(名) さかひ。●境遇。

けきよう

教(名) 「一」なしへ。「二」佛の教。○謠曲「恨

めしきかなや釋迦大師の慇懃のけうを忘

れ」

けきふ

希婦(名) 「一」希婦の細布。「二」白布の異名。

けきふ

今日(名) 此日。●こんにち。

ぎよう

御宇(名) 其天皇の御治世。●御時。●御代。○

「延喜の御宇」

ぎやきよう

行(名) 「一」佛者のする苦行。「二」文章のく

だり。「三」行書。

ぎやぎよう

行爲(名) 仕業。●行ひ。

けきよう

教育(名) 教へ育つる事。△(動)―教育す。

きやきよう

傾杯樂(名) 雅樂の曲名。

けきふ

脅迫(名) おごかし事。●おびやかす事。

△(動)―脅す。

きやきよう

杏仁(名) 藥品の名。杏あんずの核より製した

るもの。

ぎやぎよう

行人偏(名) 漢字の偏の名。行、德

などの左の部分。

きやきよう

強褌(名) むつき。

けきよう

喬木(名) 丈高く生長する種類の木の總

名。……松、櫻、栗などの類。

きよう

兇徒(名) 惡人。●惡徒。●謀反人。

きよう

共同(名) 多くの人の力を合はす事。●多く

の人の物を一つに使用する事。

經堂(名) 經藏に同じ。

行道(名) 佛家の儀式。誦經しつゝ行

列を立てゝ歩く事。

行徳(名) 修行の結果として得たる徳。

〔佛教〕

狂女(名) 女性の狂人。●女物狂。

教場(名) 學科を授業する室。●教室。

京着(名) 京に着く事。●着京。△(動)

—京着す。

行住坐臥(名) 行く事と止まる事

と坐する事と臥す事と。●起居。●朝夕晝

夜。

郷里(名) 故郷。

狹量(名) 狹き料簡。●狹き心。

協力(名) 他の力を一つに合はする事。

△(動) —協力す。

京折(名) 京都にて折りたる扇。●名産

として珍重せらる。

饗應(名) もてなし。●馳走。●振舞。

△(動) —饗應す。

きやうか

狂歌(名) 短歌の一種。俗語まじりにて滑

稽を帯びたるもの。

きやうかい

境界(名) 〔一〕さかい。●区域内。〔二〕

身の有様。●境遇。

きやうがる

興(自動四段) 面白がる。●愉快がる。

けきやうがる

希有がる(自動四段) 不思議である。●可笑しくある。○「げうがった面になつた」

きやうかたびら

經帷子(名) 經文又は佛號など書き

死人に着せて埋葬する衣。

けふかく

俠客(名) 弱きを扶け強きを挫く一種の

義人。●男立。●顔役。

きやうよう

響應(名) 〔一〕きやうおうに同じ。〔二〕

機嫌を取る事。●おせじ。●おべつか。○

今昔「これはきやうようの言なり」。

きやうようみどり

經讀鳥(名) 鶯の異名。◎其鳴聲が

法華經と聞ゆる故に云ふ。

きやうたい

兄弟(名) 〔一〕兄と弟と。●けいてい。

きやうたい

〔二〕姉妹。〔三〕同胞。

きやうたい

鏡臺(名) 鏡を立て置く臺。

きやうたい

行列(名) 儀式のため多人數續きて練り

行く事。

ぎゃ ギョ うやくじん

行疫神。行厄神(名) 陰陽家の神。人の死する時其家に遊行する神。●災厄を人に與ふる惡神。

きゃ キョ うやき

京焼(名) 京都より産する陶器の總名。……栗田焼、清水焼などの類。

きゃ キョ うま

京間(名) 建築に用ふる間數の稱へ。六尺三寸又は六尺五寸を一間とせしもの。昔し京都にて用ひたる尺度。

け キョ うまん

驕慢(名) 人に驕り人を慢る事。△(形)——驕慢なる。

け キョ うげ

教化(名) 教へて善道に化せしむる事。△(動)——教化す。(基督教)

ぎゃ ギョ うけい

行啓(名) 皇后の御他行。

きゃ キョ うげん

狂言(名) 「一」まじめならぬ言語。●滑稽の言語。「二」小説。「三」能樂の間に演ずる一種滑稽の藝。●間の狂言。「四」芝居。

きゃ キョ うげんし

狂言師(名) 能の狂言を演ずる人。又常に之を業と爲す人。

ぎゃ ギョ うぶ

刑部(名) 刑部省の略。

きゃ キョ うぶん

狂文(名) 戯文。●滑稽文。

きゃ キョ うふう

驚風(名) 小兒病の名。腦膜炎の類。

きゃ キョ うぶく

輕服(名) 忌服の輕きもの。君臣父母夫婦などならぬ時のもの。

ぎゃ ギョ うぶしやシヨウ

刑部省(名) 官廳の名。八省の一つ。斷獄、刑法、訴訟等の事を掌る所。今の司法省に當たる。官吏は卿、輔(大、小)丞(大、小)錄(大、小)あり。●うたへさだむるつかさ。

け キョ ふりこつ

俠骨(名) 俠客の氣骨。

きゃ キョ うこつ

輕忽(名) 輕卒。●輕躁。

げ ギョ うこつど

髒骨(名) 骨ばかりに瘦せたる有様。

きゃ キョ うこつ

○謠曲「膚はげうこつと衰へたり」向後(副) 此れより後。●今後。●以後。

きゃ キョ うがふ

校合(名) 文章など讀み合はせ誤を正す事。△(動)——校合す。

ぎゃ ギョ うかう

行幸(名) 天皇の御他行。●みゆき。

げ ギョ うかう

●いでまし。

ぎゃ ギョ うこう

僥倖(名) 思ひかけぬ幸福。●こぼれざいはひ。

ぎゃ ギョ うこう

行功(名) 修行の結果としてあらばるゝ功驗。(佛教)

ぎゃ ギョ うがう

行幸(名) きゃうかうに同じ。

きや キヨ うごくなり

京極折(名) 折烏帽子

きや キヨ うえん

竟宴(名) 「(一)事業の完結したる時に開く祝宴。(二)特に古へ禁中にて博士日本紀を講ずる時其一部全篇を終りたる時に行はれたるもの。此時には例として日本紀中の人物を標題にして群臣文人和歌を詠する事あり之を竟宴の歌といふ。



きや キヨ うえんのうた

竟宴の歌(名) 竟宴を見よ。

ぎや ギヨ うてん

仰天(名) 驚きの甚しき事。●呆るゝ事。△(動)―仰天す。

ぎや ギヨ うさ

行作(名) 行儀作法。●おこなひ。

け キヨ ふりさん

夾算(名) 巻物、書物などの讀みさしの目印に挟み置くもの。枝折などの類。

ぎや ギヨ うさん

仰山(副) 「(一)澤山。●多數。(二)少しの物事を大きくする事。●大げさ。……(又)―仰山に。(形)―仰山なる。

きや キヨ 凶作

(名) 作物の收穫の少き事。●不作。

きや キヨ 警策

(名) 「(一)詩文のすぐるゝ事。●秀逸。「(二)轉じては何事にても他に握んづる

きや キヨ うざく

景迹(名) 「(一)履歷。(二)推察。○沙石集「事を申さば餘の事は御景迹あるべし」

きや キヨ うき

兇器(名) 人を傷つけ又は殺す目的にて持つ及物又はヒストル。

きや キヨ うき

狂氣(名) 氣遠。●發狂。△(動)―狂氣す。

きや キヨ うき

俠氣(名) 俠客の氣風。●男氣。●葉子箱などに敷く爲の薄く削りたる木。

け キヨ うぎ

教義(名) 教會の有する教の義理。(基督教) 義季(名) 末の世。●衰へたる世。●下りたる世。

ぎや ギヨ うぎ

行儀(名) 起居進退の様子。●品行。

きや キヨ うきがる

經木筥(名) 筥の一種。經木にて編みたるもの。

きや キヨ うきやう

孝經(名) 支那の書物 孝經の古稱。

きや キヨ うきやう

輕薄。●輕忽。(形)―きやうくになる。(副)―きやうきやうに。(雅)

ぎや ギヨ うきやうし

行々子(名) 鳥の名。よしきり。

ぎゃキョウ うじやうし

仰々し(形。形状言シク活) 仰山らし。●大をうらし。

きやうきふ

供給(名) 他に必要なに應じて物を製作する事。……需用に對していふ。△(動)―供給す。

けキョウ うし

教師(名) 教ふる人。

きやうじ

凶事(名) 「一」不吉なる事。●思むべき事。「二」死亡。●不幸。

きやキョウ うじ

經師(名) 「一」佛書の表具を業とする人。「二」轉じては表具師の總名。

けキョウ ふじ

脇侍(名) わきだちを見よ。

ぎやキョウ うじ

行司(名) 相撲の勝負を審判する役。

ぎやキョウ うじ

行事(名) 「一」定時に行はるゝ儀式。○「年中行事」日中行事「二」其事務を管理執行する人。○今昔「行事の列官代」「三」商人組合の世話人。○「年行事」

ぎやキョウ うし

行書(名) 漢字書體の名。楷書と草書との間の體。

ぎやキョウ うじやうし

行狀(名) 行儀。●品行。●おこなひ。

けキョウ うしやでん

校書殿(名) 禁中にて御藏書を入れ置き

きやキョウ うじん

たるまころ。

狂人(名) 氣の狂ひたる人。●氣違。●瘋癲者。

きやキョウ うじん

郷人(名) 故郷の人。●同郷の人。

きやキョウ うしや

香車(名) 將棋の駒の名。一直線に進行するもの。

きやキョウ うじや

經師屋(名) 經師を職とする家。又は其人。

ぎやキョウ うじや

行者(名) 「一」佛道の修業者。「二」特に山入などして苦行する修驗者。

きやキョウ うじやく

強弱(名) 強き事と弱き事と。●強きものと弱きものと。

けキョウ うし

梟首(名) 昔の刑罰の名。罪人の首を斬り之を高處に懸け晒らす事。●獄門。△(動)―梟首す。

けキョウ うじゆ

教授(名) 學藝を教へ授くる事。又は其人。△(動)―教授す。

きやうしやく

恐縮(名) 恐れて小さく縮む事。●恐入る事。△(動)―恐縮す。

きやキョウ うもん

經文(名) 佛經の文章。教説(名) 教義に同じ。《基督教》

けキョウ うせつ

ぎやうせき

行跡(名) 行狀。●品行。●おこない。

きようす

供(他動サ變) そなふる。●あてる。●差し出す。

きようす

拱(他動サ變) 手を組む。……用の無き折など。

きやきうす

響(他動サ變) ふるまふ。●響應する。

けきようす

梟(他動サ變) 梟首する。●獄門に懸くる。

きようす

興(自動サ變) 面白がる。●興味を感じる。

きようす

興(他動サ變) 面白むらす。●樂しむらす。

ぎやうす

●趣味を感じしむる。

ぎやうす

行水(名) 水又は湯にて身を洗ひ清むる事。

ぎやう

局(名) 「一」官省中の一部。○「土木局」「地理局」

きく

「二」碁盤の面。「三」井區域内。

きく

曲(名) 「一」曲る事。●不正の事。「二」普通の人

きく

の出来ぬ不思議の藝などする事。○「曲舞」

きく

「曲彈」「三」興味。●面白み。「四」音樂、歌舞

きく

の一篇。

きく

終り。●極み。●果て。

きく

礦物の名。質は瑪瑙に似て青白き光を帯

ぎく

びたるもの。上古之を磨きて丸くなし緒に

ぎく

貫きて身體又は器物の裝飾に用ひたるも

きくろく

曲录(名) 倚子の種類。現今僧家にて用ふるもの。

きくば

曲馬(名) 馬上にて種々の藝を演ずる事。

きくはい

玉佩(名) 禮服の時胸より脊の鼻に當たる程に垂る一種の

裝飾品。玉にて

作れるものにて

天皇は二流臣下

は一流之を用ふ。(圖)

玉杯(名) 玉にて造りたる杯。

極度(名) 果て。●極まり。●極端。

玉兎(名) 月の異名。

曲直(名) 曲りたる事と直き事と。●邪正。

●善惡。

巨魁(名) 賊徒などの大將。

玉顔(名) 玉の如く美はしき顔。●美人の顔。

玉體(名) 天皇の御身體。

玉帶(名) 束帶の時の帶。革の帶、石の帶の

種類。玉の飾あるもの。

曲乘(名) 普通さかばりて面白き馬の乗方。

きくろり

きくぐわい

局外(名) 其事に關係なきところ。

きくくくん

玉冠(名) 御即位大嘗會の時

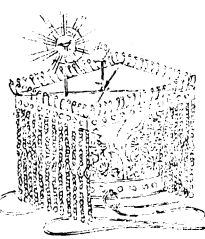
天皇着御の冠。

玉にて飾りたる

もの。(圖)

きくくろ

玉座(名) 天皇の御座。



きくくじ

曲事(名) 「一」法律に違犯する事。「二」刑罰。

きくくじ

玉璽(名) 天皇の御印章。●御璽。

きくくし

局所(名) 醫術上の詞。身體中の一部分。

きくくじつてい

玉樹後庭花(名) 雅樂の曲名。

きくくせつ

曲折(名) 「一」曲り。●ゆがみ。●風曲。「二」詩歌文章音楽なごわやのある事。●一ふしある事。

ある事。

きくくせん

曲線(名) 曲りたる線。

きくくせき

跼蹐(名) 背を屈め抜き足する事。△(動)一跼蹐す。

きくくする

曲水(名) 曲水の宴を見よ。

きくくするのえん

曲水の宴(名) 古代禁中公事の一つ。

三月三日(上古は上巳の日)群臣に御宴を賜

きよまる

清(自動四段) 清らかになる。●汚れが無く

なる。

きよまはり

(名) 身を清むる事。●物忌。●潔齋。

きよまはる

(自動四段) 身を清むる。●物忌する。●潔齋する。

きまん

巨萬(數) 極多の數。

きけつ

去月(名) 先月。●あこの月。

きけん

御劍(名) 天皇御佩用の劍。

きふ

漁夫(名) 漁を業とする人。●獵師。

きふ

漁父(名) 「一」漁人。●漁夫。「二」古代和琴の名。

きこん

虚言(名) 偽りの言。●うそ。●そらこと。

きこく

舉國(副) 全國残らず。

きえん

御宴(名) 天皇の賜はる御酒宴。

きえん

御苑(名) 禁中の御庭。

きでん

魚田(名) 魚田樂の略。◎食品の名。魚に味噌

を附けて焼きたるもの。

きあい

御愛(名) 天皇の御寵愛。

ききん 釀金(名) 金銭を多くの人より集むる事。△
(動)―釀金す。

きよきやま 聖山(名) シオン山を云ふ。エルサレム(猶

太國の都)其上にあり聖殿あるを以ての名。

神の居所といふ意に用ふ。(基督教)

きよきみたま 聖靈(名) 神の御靈。(基督教)

きよきう 御遊(名) 天皇の御前にて行はるゝ管絃の御

遊び。

きよめ 清。淨(名) 清むる事。

きよめい 虚名(名) 實無くして評判のみ高き名。

きよみ 魚味(名) 魚の味。……魚味の祝を見よ。

きよみづき 清水焼(名) 陶器の一種。京都清水邊に

て製するもの。

きよみのいはりい 魚味祝(名) 小兒三四才の時始めて

魚類を食ひ初むる祝儀。

きよし 清。淨(形。形状言ク活) 清淨である。●潔白で

ある。●神聖である。

きよしやう 去聲(名) 韻を見よ。

きよしぐ 虚飾(名) 外見のみの裝飾。

きよじつ 虚質(名) 「一」偽ま誠ま。「二」油断のあるま無

い。

きじつ 虚日(名) 透開の日。●あひまの日。

きしんなる 御寢爲(自動四段) 眠り給ふ。●お休みに

なる。

きよしや 馭者。御者(名) 馬車などの馬を使ふ人。

きよじやく 虚弱(名) 身體の壯健ならぬ事。●多病。

きよしやう 去就(名) 去る事と就く事と。

きよびやう 虚病(名) 偽りて病氣の如く見する事。

●作病。

きよせい 虚勢(名) 見せかけのみの勢。●附景氣。

きよせい 御製(名) 天皇の御作。……詩歌文章などに云

ふ。

きよせつ 虚説(名) 無實の 説。●虚談。

きよせつ 拒絶(名) 拒みて謝絶する事。●請求に従はぬ

事。△(動)―拒絶す。

きよす 馭。御(他動サ變) 「一」馬を使ふ。「二」人を使ふ。

きた 北(名) 「一」東に向ひて左の方。「二」北風の略。

「三」藤原氏の北家。

きた 段(名) 切れ。●分ち。●刻み。●刻み目。

きたい 氣體(名) 物理學上にいふ三體の一つ。一定の

形を有せず常に上下四面に廣がり散るの性

を有するもの。●氣狀態。

きたい

希代 世に稀なる事。めづらしき事。(形)―希

代なる。(又)―希代の。(副)―希代に。

きたいふ

義大夫(名) 義大夫節。

きたいふぶし

義大夫節(名) 淨瑠璃の一種。竹本義大夫の創めたるもの。

きたはし

階(名) きざはしに同じ。

きたち

木太刀(名) 木製の刀。●木刀。

きたる

來(自動四段) くる。

きたおもて

北面(名) 家の北向のまゝ。

きたならし

穢(形。形狀言シク活) 穢なく思ふ。(雅) 穢なしに同じ。

きたなむ

穢(形。形狀言ク活) 「一」汚れたる。●不潔なる。「二」卑怯なる。「三」卑し。●吝し。

きたなし

爵(他動下二段) 罪科を詰問する。●罪を糺す。

きたむ

●罪する。(雅)

きたん

奇談(名) 奇妙なる話。●めづらしき話。

きたん

疑問(名) うたがひのひたまり。●疑問。

きたふ

鍛(他動四段又下二段) 「一」鐵を固くする

きたふツ

爲め火に焼きて打つ。●鍛練する。「二」身體又は精神を練る。

きたのちん

北陣(名) 兵衛府の一名。

きたのおきな

北翁(名) 塞翁を見よ。

きたのかた

北方(名) 公卿、將軍の妻の尊稱。●奥方。

きたのまつり

北祭(名) 十一月下の酉の日に、加茂の臨時祭。

きたのまんどろ

北政所(名) 攝政、關白の妻の尊稱。

宣下によりて稱ふるもの。

きたく

歸宅(名) 宅に歸る事。△(動)―歸宅す。

きたやま

北山(名) 京都の北方の山。

きたやましぐれ

北山時雨(名) 京都の北山にて降る時雨。

雨。

きたまつり

北祭(名) 北の祭を見よ。

きたます

(他動四段) きたむの敬語。(紀)

きたげ

(名) 北風。(堀川)

きたごち

北東風(名) 東北の風。

きたしぐれ

北時風(名) 北風にて降る時雨。

きたす

來(他動四段) 來らしむる。●生ずる。

きれ

切(名) 「一」切りたる物の端。●ちぎれたるもの端。●破片。「二」織物の總名。

きれい

奇麗(名) 「一」美しき事。●はでやかなる事。

(二)清潔。……△(形)―奇麗なる。(副)―奇麗に。

きれぢ

切地(名) 織物。

きれこむ

切込(自動四段) 切れて深く入り込む。

きれあぢ

切味(名) 刃物の切れ工合。

きれぎれ

切切(名) 細かく裂けちぎれたる事。△(形)

—きれんくなる。(又)—きれんくの。(副)—
きれんくに。

きれじ

切字(名) 俳諧にて意味の切るゝ文字。●終止

言。……やけりかなの類。

きれもの

切物(名) 物を切り割く爲めの道具。●刃物。

きそ

基礎(名) 「一」石すゑ。「二」物事の本。●基本。

きそ

(名) 昨日。●昨夜。(萬葉)

きそひがり

競獵(名) 互に競争してする獵。(萬葉)

きそひうしま

競馬(名) けいば。

きそば

生蕎麥(名) 交り物の無き蕎麥切。

きそはじめ

着衣始(名) 年の始に新しき衣を着初むる

事。

きそろう

貴僧(代) 僧に對して呼ぶ尊稱。●御僧。

きそふ

競(自動四段) 人に負けじと争ふ。●競争する。

●腕くらべする。

きそふ

(自動下二段) 着装ふ。●着飾る。

きそろう

寄贈(名) 寄せ贈る事。△(動)寄贈す。

ぎざう

偽造(名) 偽を以て其物に似せ造くる事。△

ぎざう

(動) 偽造す。

ぎざう

擬造(名) 似せて造る事。●模造△(動) 擬造

す。

きそのあざむ

木曾の麻衣(名) 信州木曾の麻にて織

りたる衣。古代の名産。

きそく

規則(名) 掟。●定め。●法則。

きそく

貴族(名) 身分の貴き人。●貴人。

きそくだつ

規則立(自動四段) 順序の正しく立つ。

きつ

狐(名)

きつれの略。

きつ

吉(名)

きちに同じ。

きつど

急度。屹度(副) 「一」ちようさ。●しばらく。(二)

たしかに。●必ず。

きつてう

吉兆(名) めでたき前兆。●瑞兆。

ぎのちう

毬杖(名) 「一」打毬樂の舞人が持ち球をす

くふ一種の杖。先はヒのやうになりたるも

の。(二)是に擬して造れる小兒の遊戲の具。

昔し年の始に用ひたるもの。

きつりつ

屹立(名) 切り立てたる如く聳え立つ事。△

きつかひ

(動) 屹立す。

氣遣(名) 氣がゝり。●不安心。

きつかは^ワし

氣遣(形。形狀言シケ活) 氣にかゝる。●危ふく思はる。●不安心な。

きつか^コふ^ク

氣遣(自動四段) 危ぶむ。●心配する。

きつよし

氣強(形。形狀言ク活) 「(一)心丈夫な」(二)無情な。

きつたん

吉旦(名) 吉辰。●吉日。

きつそう

吉左右(名) めてたき便り。●無事の音信。

きつつき

啄木鳥(名) 鳥の名。常に木の幹にさまり銼

の如く鋭き嘴を以て樹の皮を啄き破り小虫を搜し食ふもの。●てらついき。

きつね

狐(名) 獸の名。犬に似て小さく口と耳と尖りたるもの。

きつねど

狐戸(名) 寢殿の破風に立てたる狐格子。

きつねつかひ

狐遣(名) 神術ある狐を使役して行ふ一種の魔術。又は之を行ふ人。

きつねつき

狐付(名) 一種の狂病。狐が體內に入りて精神を亂すといふもの。又は此病氣に罹りたる人。

きつねが^うし

狐格子(名) 格子の目の角なるもの。狐火(名) 夜中山野などに現はるゝ燐火。狐の口より吐くといふもの。

きづな

絆(名) 「(一)馬牛などを縛り繋ぐ綱。」「(二)人心または人體の束縛。

きづく

築(他動四段) 「(一)土石などを積み上ぐる。」「(二)城を造る。

きづけ

着附(名) 能樂芝居などの演者の着服。

きつけ

氣付(名) 「(一)注意。」「(二)生氣を失ひたるものを呼び生かす事。」「(三)氣付に用ふる藥。

きつぷ

切符(名) 合鑑。●切手。●券。

きつか^コふ^ツ

龜甲(名) 模様の名。龜の甲の如き六角の形。(圖)

きつこうでん

乞巧奠(名) 七夕に行ふ二星の祭。

きつて

切手(名) 手形。●券。●切符。

きつさき

切先(名) 刃物の先。

きつし

(形。形狀言ク活) 「(一)強し。●えらし。」「(二)甚し。●餘程。

きつし

吉書(名) 吉書始に同じ。

きつしはじめ

吉書始(名) 年の始に日出度き詩歌など書きそむる事。●書き初め。●試筆。

きつしん

吉辰(名) めてたき日。●吉日。●佳辰。

きつしゃ

牛車(名) うしぐるまに同じ。



きつす

喫(他動サ變) たべる。●食ふ。●飲む。

きね

杵(名) 米餅など搗く具。槌の如く振り上げて搗くものを搗杵かぢねといひ。眞直に立てゝ突くやうにするを手杵といひ。足にて踏みて搗くを踏杵といふ。

きなごどり

黄粉鳥(名) 鶯の異名。

黄粉餅(名) 黄粉を衣にしたる餅。●安倍川餅。

きね

きね

木根(名) 木。(雅)

きね

宜禰(名) 神官。(雅)

きねたち

木根立(名) 木の切株。(祝詞式)

きねん

記念(名) 忘れぬ爲めのかたみ。●思出しの種。

きねん

祈念(名) 祈る事。●祈願。△(動) 祈念す。

きねん

疑念(名) 疑はしく思ふ心。

きねんさい

祈念祭(名) 年ごひの祭に同じ。

きねんひ

記念碑(名) 記念として立つる碑。

きねんみ

木鼠(名) 獸の名。形貳に似て常に深山の木の上に住み果實を食さるるもの。●りす。

きなぬいつみ

(名) 黄泉の文字の直譯。◎冥途。●みち。●よみの國。(空穗)

きなが

氣長 氣を落ち付けて急がぬ事。(形) 氣長の。

きながし

着流(名) 男の袴を穿かざる出で立ち。

きなこ

黄粉(名) 食品の名。大豆を挽きて粉にしたる

きなこ

黄粉(名) 食品の名。大豆を挽きて粉にしたる

きなこ

黄粉(名) 食品の名。大豆を挽きて粉にしたる

もの。

綺羅(名) 衣服のはてやかなる事。

浮垢(副) 水面などに浮びて輝くもの。

嫌(名) 「一」嫌ふ事。●心にいやと感ずる事。

「二」憚り。●遠慮。

(名) きら／＼しき星。

嫌(形。形狀言シク活) いやに思はるい。

(自動四段) きら／＼する。

雲母(名) 礦物の名。色は銀の如くきらめき質軟かにして紙の如く剥がるいもの。

きら／＼する有様。(形) 一きら／＼なる。

(副) 一きら／＼に。

嫌(他動四段) 厭はしく思ふ。●いやがる。

(他動四段) 霧るの延音。◎霧さなりて立つ。

●曇る。

歸洛(名) 京都に歸る事。●歸京。△(動) 一歸洛す。

氣樂 心の安く楽しき事。●憂のなき事。(形)

氣樂 心の安く楽しき事。●憂のなき事。(形)

きらきら

氣樂なる。(又)一氣樂の。(副)一氣樂に。

(副) まばゆきは、輝きて見ゆる有様。(又)

きら／＼と。

きらきらし

(形)形状言シク活 きら／＼する有様。

きらめかし

(形)形状言シク活 きらめく有様。

きらめかす

(他動四段) きら／＼させる。

きらめく

(自動四段) きら／＼する。

きらめき

(名) 数々の菜を臺盤の上に置きて饗應する事。(日中行事)

きらびやか

きら／＼と美しく見ゆる有様。(形)きらびやかなる。(副)きらびやかに。

きらす

切(他動四段) 切れさせる。

きらす

(自動四段) 曇る。●よつ／＼になる。●かき／＼する。(雅)

きらす

雪花菜(名) 豆腐のから。●卵の花。

きむ

極(他動二段) 「一」きはむる。●定むる。「二」詰責する。

きん

金(名) 「一」黄金。●かね。「二」金屬。●かね。

「三」金錢。●貨幣。「四」貨幣の價格。兩または圓の代用。○「百金」「十金」「五」色の名。黄金の色。「六」將棋の駒の名。金將。

きん

筋(名) 身體のすぢ。

きん

琴(名) 雅樂の樂器。ここの種類にて七絃なるもの。(圖)

きん

巾(名) 箏の第十三番目の糸の名。

きん

斤(名) 目方の名。時代により品物によりて其量同じからず。

きん

禁(名) 禁止。

ぎむ

義務(名) 人の言に服従せざるべからざる道理上又は法律上の務。

ぎん

銀(名) 「一」しろがね。●白銀。「二」銀貨。「三」貨幣。●金錢。「四」色の名。白銀の色。「五」將棋の駒の名。銀將。

ぎん

吟(名) 「一」詩歌を歌ふ事。「二」發句を作る事。「三」作りたる詩歌發句。「四」歌曲の音調。

きんば

金波(名) 黄金色の波。月の水に映じたるを見立ていふ。

きんばん

勤番(名) 徳川時代大名に従ひて江戸に詰め居る事。

きんばく

金箔(名) 黄金にて作りたる箔。

ぎんばく

銀箔(名) 銀にて作りたる箔。

きんべん

勤勉(名) つとむる事。●勉強。



さんべん

巾偏(名) 漢字の偏の名。幡、幟等の字の左の部分。

さんぢ

(代) 汝。(雅)

さんぢやチヨウ

金打(名) 武士の間に行はれし一種の宣誓法。男は双方の刀を打合せ。女は鏡と鏡とを打ち合せて行ひしもの。

さんぢやチヨウ

謹聽(名) 謹みて聴く事。

さんてチヨウ

近調(名) 中古以來の和歌の風。……奈良朝以前のを古風といふに對して。

さんぢやく

巾着(名) 金錢などを入れて腰に下くる袋。布革などにて製し口を締め括る様によりたるもの小兒は守札を入るゝために之を用ふ。

さんぢゆう

禁中(名) 宮中。●内裏。●御所。

さんり

禁裏(名) 禁中。●内裏。●御所。

さんかい

禁戒(名) 佛教上の禁制。

さんかん

金柑(名) 木の名。蜜柑の類。花は夏の初の頃咲き指の先ほどの大きさの實は冬熟す。

實の形は圓きと楕圓形との二種あり。

さんがん

近眼(名) ちいめ。

さんかく

金額(名) 金高。

さんかく

勤學(名) 學問を勤むる事。●勤學。●修學。

さんかざり

△(動)―勤學す。金風折(名) 金紙にて作れる風折烏帽子。能樂芝居などにて用ふるもの。

さんがみ

金紙(名) 金色の紙。

ぎんがみ

銀紙(名) 銀色の紙。

さんえう

金曜(名) 日曜より六日目。

さんえう

緊要(名) 必要。●肝要。●大切。△(形)―緊要なる。(又)―緊要の。

さんたい

近體(名) 現今の風體。

さんだい

近代(名) 近き代。●近頃。●近世。

さんだち

公達(名) 「一」姓を賜はりて臣下となりたる皇族、および清華、攝家、大臣、大將の子息。

「二」又同じ資格の人の息女。

きんだか

金高(名) 金錢のメ高。●金額。

きんだん

金談(名) 金錢貸借の相談。

きんそく

禁断(名) 禁制。

きんそく

禁足(名) 「一」罰。「二」佛道修行のため期限を立てて寺より外に出てざる事。(佛教)

きんぞく

金屬(名) 金銀銅鐵の類に屬する總べての物體。

きんづば

金鑊(名)

〔一〕黄金にて作りたる刀の鑊。

〔二〕餅の一種。小麥の粉に餡を包みて焼きたるもの。其形刀の鑊に似たり。

きむつかし

(形。形状言シク活)

機嫌の取りにくき。

ぎんあみ

銀杏(名)

いてふの木の実。

きんらい

近來(名)(副)

近時。●近頃。

きんらん

金襴(名)

織物の名。金糸を交へて美しく織りたる一種の錦。

ぎんらん

銀欄(名)

金欄の種類。銀糸を交へて織りたるもの。

きんう

金鳥(名)

太陽の異名。

きんわう

勤王(名)

天皇の爲めに身命を擲ちて盡す事。

きんのうるし

金漆(名)

黄金色の漆。○榮花「花山院の御車はきんのうるしなごいふやうに塗らせ給へり」

せ給へり

きむく

黄無垢(名)

服色の名。黄色の無垢。

きんく

禁句(名)

〔一〕慣例によりて和歌に用ふるな嫌ふ語句。〔二〕他人の氣に障るべき言語。

きんくわ

金貨(名)

黄金にて造りたる貨幣。

きんくわ

槿花(名)

花の名。朝顔。

きんくわ

近火(名)

近處の火事。

ぎんく

銀貨(名)

銀にて造りたる貨幣。

きんくゝんしよく

金環蝕(名)

日蝕の際に起る一種の現象。月が太陽の中心を覆ひ周圍のみ輪の如く輝きて見ゆるもの。

きんまん

金満(名)

金持。

きんまんもん

君眞物(名)

琉球の魔神の名。

きんけい

錦雞(名)

鳥の名。形雉子に似て赤、黄、緑、茶など種々の色を帯びたる美しきもの。●にしきざり。

きんけつ

禁闕(名)

〔一〕禁裡の門。〔二〕皇居。●宮城。

きんげん

謹言(名)

男子書簡文の終に書く詞。謹みて言ふの意。●敬白。

きんげん

金言(名)

貴重なる言語。●格言。

きんぷん

金粉(名)

繪具の一種。金を粉にしたるもの。

ぎんぷん

銀粉(名)

繪具の一種。銀を粉にしたるもの。

きんぷう

金風(名)

秋風。

きんぶくりん

金覆輪(名)

金にて覆輪にする事。

きんこ

金庫(名)

金銀を藏め置く倉庫。

きんこ

禁銅(名)

〔一〕徳川時代の刑罰。期限を定めて

外出を禁ずるもの。「二」現今の刑罰。監獄
内にて力役に服せしむるもの……△(動)―
禁錮す。

さんこ

近古(名) 歴史上の詞。中古の次の時代。鎌倉

幕府の創業より徳川幕府の起るまでの間。

さんこ

金吾(名) 左右衛門督の異名。

さんこつ

筋骨(名) 筋と骨と。

さんこんしき

金婚式(名) 夫婦相婚してより五十年目
の祝儀。

さんこんしき

銀婚式(名) 夫婦相婚してより二十五年
目の祝儀。

さんかう

銀行(名) 金銭の融通を營業とする會社。

さんごく

禁獄(名) 刑罰の名。監獄に入る事。●入牢。

さんこじ

△(動)―禁獄す。

金巾子(名) 天皇着御の冠の一種。纓を巾子
の丈より前へ引越して折り返し金色の巾子

紙を鉢巻のやうに挿し込みて留めたるも
の御内々の時にめす。……巾子紙を見よ。

ぎんえい

吟詠(名) 詩を吟じ歌を詠する事。●詩歌を
作る事。又は作りたる詩歌。

きんあん

金園(名) 金子。

きんあん

禁苑(名) 禁中の御庭。●ぎんあん。

きんてい

禁廷(名) 「一」禁裏。●宮中。●御所。「二」

天皇陛下。○「禁廷様」

きんでい

金泥(名) 繪具の一種。金粉を膠の液にて溶

きたるもの。

ぎんでい

銀泥(名) 繪具の一種。銀粉を膠の液にて溶

きたるもの。

きんでつ

金鐵(名) 金と鐵と。

きんでん

金殿(名) 美麗なる家。

きんざ

金座(名) 徳川時代金貨を鑄造せしころ。

きんざ

銀座(名) 徳川時代銀貨を鑄造せしころ。

きんざい

近在(名) 近くにある村里。……都會の地に

對していふ詞。

きんざつ

金札(名) 金貨を代表する紙幣。

きんざつ

禁札(名) 禁制の箇條を掲せし立て札。

ぎんざつ

銀札(名) 銀貨を代表する紙幣。

きんざん

金山(名) 黄金を産出する鑛山。

きんざん

銀山(名) 銀を産出する鑛山。

きんざんじみそ

金山寺味噌(名) 味噌の一種。大麥と

大豆とにて製したる甘味のもの。

きんき

近畿(名) 「一」皇居に近き處。「二」五畿内。

きんき

禁忌(名) 禁制によりて忌み憚るべき事。

きんぎょ

金魚(名) 魚の名。鰭に似て小さく尾の殊に大なるもの。多くは紅色にして金光を帯び池鉢などに飼はれて人の寵を受く。

きんぎょ

銀魚(名) 金魚の一種。色の白きもの。

きんぎょぶ

金魚鉢(名) 焼麩の一種。金魚の飼料とすもの。

きんめ

斤目(名) 斤秤りに盛りたる目。(二)斤秤に掛けたる物の目方。

きんみ

吟味(名) 「一」不明の物事をよく調ぶる事。「二」罪人を糺明する事。……△(動)——吟味す。

きんし

金糸(名) 金色の糸。

きんし

金紙(名) 金色の紙札。無罪死人を善所に送る時閻魔王が其姓名を書き付くる料のもの。

(佛教)

きんし

禁止(名) 「一」止めて許さぬ事。●禁制。△(動)——禁止す。「二」語學上の詞。禁止の意味を示す助動詞。……勿れななどの類。

ぎんし

銀糸(名) 銀色の糸。

きんしう

焮衝(名) 醫學上の詞。身體の一小部が腫れて熱を發し痛みを感じる事。

きんじやう

今上(名) 現今の天皇陛下。

きんじやう

謹上(名) 謹んでたてまつる。●謹んで申し上ぐる。

きんじやう

謹上再拜(句) 神に祈る時の詞。謹んで申し上げ再拜するの意。

きんしよく

銀燭(名) 銀色の如く美しく輝く蠟燭の火。

きんしん

謹慎(名) 「一」身を謹む事。「二」徳川時代武士の刑罰の名。返鑓の輕きもの。

きんじき

禁色(名) ゆるし色を見よ。

きんしゆ

禁酒(名) 飲酒を廢する事。△(動)——禁酒す。

きんじゆ

近習(名) 主君の側近く仕ふる人。侍従。

きんしゆ

銀朱(名) 水銀より製したる朱。

きんしう

錦繡(名) 錦と繡と。……華美なるもの、例に用ふ。

きんじやう

禽獸(名) 鳥と獸と。

きんもつ

禁物(名) 「一」禁すべきもの。「二」禁じたるもの。

きんもん

禁門(名) 禁裏の門。

きんせい

金星(名) 太陽系中地球に最も近き遊星の名。●明星。

きんせい

近世(名) 今より遠からぬ前の世。徳川時代

以後。

さんせい

禁制(名) 官より命じて禁止する事。

さんせかい

銀世界(名) 銀にて造りたる世界。……雪

の景色などを見立て、いふ詞。

さんせん

金銭(名) 貨幣の總名。

さんせん

銀錢(名) 銀貨。

さんせき

金石(名) 金と石と。●礦物。

さんせきがく

金石學(名) 學科の名。金石に關する事

を研究するもの。

さんす

金子(名) 貨幣。●金錢。

さんす

禁(他動サ變) 許さぬ。●止むる。

さんす

銀子(名) 銀貨。

さんす

吟(他動サ變) 「一」詩歌を歌ふ。「二」發句を作

る。

さむすめ

生娘(名) いまだ夫を持たぬ娘。●少女。

さうり

胡瓜(名) 瓜の一種。花は黃色にして實は丸く

長く短き刺あり。最も普通の食用となるも

の。

さうた

杵歌(名) 杵にて物を搗く時に謠ふ歌。

さうん

機運(名) 時機。●運命。

さのはし

木端(名) 木の切端。●木の切屑。●こっぱ。

きのこ

乙(名) 十千の第二。

きのどく

氣毒 「一」耻つかしき有様。●赤面。「二」他

人を痛はしく思ふ有様。●おいさし。……

(形)―氣の毒なる。(副)―氣の毒に。

きのかしら

木頭(名) 拍子木の合圖。芝居にて幕の開

閉舞臺の廻轉などの時用ふるもの。

きのう

歸農(名) 官職を辭して元の農夫となる事。△

(動)―歸農す。

きのふ

昨日(名) 今日の前の日。●さくじつ。

きなふ

歸納(名) 論理學上の詞。演繹の對。多くの

事實を綜合して一の眞理を發見するもの。

△(動)―歸納す。

ぎのう

技能(名) 技藝の能力。●腕。

きのくに

紀伊國(名) 催馬樂の曲名。

きのまろどの

木丸殿(名) 荒木のまゝ削りみが、ぬ木

もて作れる御殿。……假御所の稱へ。

きのこ

菌(名) 菌の種類。植物。傘を開閉せしが如く

莖ありて地上又は木の幹などに生するも

の。

きのえ

甲(名) 十千の第一。●かふ。

きのめ

木芽(名) 「一」木より出づる芽。「二」特には山

椒の芽。

きのめでんがく

木芽田樂(名) 食品の名。田樂に山椒の芽をあしらひたるもの。

きのみ

木實(名) 木に出来たる實。●このみ。

きのみどき

季御讀經(名) 古代禁中にて行はれたる佛事の名。春秋二季(二月八月)に一回づゝ百僧を南殿に召して大般若經を讀ませらるゝもの。

きのみちのたくみ

木道匠(名) 木工。●大工。

きのみちのたくみ

菊(名)

〔一〕草の名。花は唐松の葉に似て白、黄、紅、樺など種類多く培養によりては直径一尺以上の大花を着くるに至るもの。秋咲くを普通とすれども夏菊寒菊などの如く夏冬に咲くもあり。〔二〕重の色目の名。表白、裏蘇枋。〔三〕紋の名。花の形にかたどりたるもの。

きのみちのたくみ

規矩(名) 定木。●のり。●規則。

きのみちのたくみ

起句(名) 詩歌の最初の句。

きのみちのたくみ

聞。聽(他動四段) 〔一〕耳に感ずる。〔二〕聞ふ。●質問する。〔三〕承諾する。〔四〕香を嗅ぐ。

きのみちのたくみ

利(自動四段) 其目的を達する。●好結果のあら

きのみちのたくみ

器具(名) 器物。●道具。

きのみちのたくみ

木具(名) 〔一〕木造りのすべての道具。〔二〕特には兩足の木の膳。

きのみちのたくみ

菊賊(名) 小鳥の名。形目白に似て頭に黄色の菊の花形の毛あるもの。

きのみちのたくみ

菊燈臺(名) 燈臺の一種。上下ともに菊の形に作れるもの。〔圖〕

きのみちのたくみ

黄朽葉(名) 染色の名。松葉色の黄がいりたるもの。

きのみちのたくみ

麴塵(名) 山鳩色を見よ。

きのみちのたくみ

歸化(名) 他國人が來りて我國民の籍に入る事。

きのみちのたくみ

△(動)―歸化す。

きのみちのたくみ

奇貨(名) 得難き寶。●他日利益を得べき見込のある代物。

きのみちのたくみ

奇禍(名) 不思議の災難。

はるい。

きぐ

きぐ

きぐ

きぐ

きぐ

きぐ

きぐ

きぐ

きぐ

きぐ

きぐ

きぐ

きぐ

きぐ

きぐ

きぐ

きぐ

きぐ

きぐ

きぐ

きぐ

はるい。

器具(名) 器物。●道具。

木具(名) 〔一〕木造りのすべての道具。〔二〕特に

は兩足の木の膳。

菊賊(名) 小鳥の名。形目白に似て頭に

黄色の菊の花形の毛あるもの。

菊燈臺(名) 燈臺の一種。上下ともに菊の形に作れる

もの。〔圖〕

黄朽葉(名) 染色の名。松葉色の黄がいりたるもの。

麴塵(名) 山鳩色を見よ。

歸化(名) 他國人が來りて我國民の籍に入る事。

△(動)―歸化す。

奇貨(名) 得難き寶。●他日利益を得べき見込のある代物。

奇禍(名) 不思議の災難。

機會(名) 場合。●うまき時期。

奇怪 不思議。(形)―奇怪なる。(又)―奇怪の。

(副)―奇怪に。

忌月(名) 死人の命日に當たる月。●祥月。

忌月(名) 死人の命日に當たる月。●祥月。

忌月(名) 死人の命日に當たる月。●祥月。

忌月(名) 死人の命日に當たる月。●祥月。

忌月(名) 死人の命日に當たる月。●祥月。

(雅)

きくりん

機關(名) 「一」仕掛。●からくり。「二」我意志

を代表して働く道具。

きくりん

氣管(名) 喉より肺に通ずる呼吸の管。

きくりん

奇製(名) 立派なる見もの。

きくりん

祈願(名) 神佛への祈り願ひ。

きくりん

議官(名) 大政の評議に與かる官吏。

きくつき

菊月(名) 九月の異名。

きくならく

(副) 聞くには。●聞きて居るには。

きくらげ

木海月。木耳(名) 菌の一種。形人の耳に似て

一處に叢生し食用となるもの。但し其生ず

る木によりては毒分を含む。

きくむすび

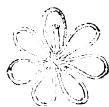
菊結(名) 紐の結び方の名。

(圖)

きくう

奇遇(名) 不思議の面會。●意外

の對面。



きくのわた

菊綿(名) 菊のきせわたに同じ。

きくのさかづき

菊盃(名) 重陽の宴に菊を浮べて飲む

もの。

きくのきせわた

菊の着綿(名) 古代の風俗。九月九日

菊の花に綿を被せ置き之に花の香をうつし

きくのみつ

て身につけ又他人にも賜はりて祝ひたるもの。老を拭ひ捨つるの意味。

菊水(名) 「一」菊の滴の交りて流るゝ水。

「二」壽の故事として用ふ。荊州記に曰く。

南陽酃縣北八里有菊水。其源旁悉芳。菊水

極甘馨。又中有三十家。不復穿井即飲此

水。上壽百二十三十。中壽百餘。七十者猶以

爲天。

菊衣(名) 菊の重かさねの衣。

きくごころも

菊座(名) 「一」金具の名。菊の花形に造りたる

もの。「二」肛門。

きくもん

鞠問(名) 責め問ふ事。△(勳)―鞠問す。

きくすゐ

菊水(名) 「一」菊の水に同じ。「二」紋の名。

菊の花の水に流るゝ形。……楠氏の家の紋。

きくすり

生藥(名) 未だ調合せざる藥くすり。

きくや

木屋(名) 材木を賣買する家。

きくはん

脚絆(名) 遠路など行く人の脛に當てゝ紐にて

締むるもの。布製。

きくやり

木遣(名) 材木を運送する時に謠ふ唄。

きくたつ

脚榻(名) 踏臺の一種。四脚にして高く作つくりたるもの。庭木の枝おろす時など多く用ふ。

きやう

彼奴(代)

人を卑しみて呼ぶ詞。●あの男。●あのやつ。●いやつ。

きやう

伽羅(名)

熱帶の木の名。香氣殊に高くして最も貴重せらるゝ香料なるもの。

きやう

(名)

英語より来る。◎織物の名。金巾に似て薄く羽二重の如き光澤あるもの。

きやう

(副)

笑ふ聲。

きやう

規約(名)

約定の上の規則。

きやう

脚(名)

足。

きやう

客(名)

「一」其家を尋ねて来る人。「二」變應せらるゝ人。

きやう

瘡(名)

病の名。おこり。

きやう

逆(名)

「一」さかさまなる事。●反對。「二」道ならぬ事。●惡逆。

きやう

脚本(名)

「一」芝居の筋書。「二」文章の仕組。

きやう

逆徒(名)

逆賊の徒。

きやう

脚湯(名)

腰湯。

きやう

虐待(名)

無慈悲の待遇。

きやう

客僧(名)

「一」旅行中の僧。「二」特に山伏。

きやう

逆賊(名)

逆臣。客の来る事。

きやう

客間(名)

客坐敷。

きやう

逆縁(名)

順縁を見よ。

きやう

客殿(名)

客坐敷。

きやう

客人(名)

きゃく。●まらうご。

きやう

逆臣(名)

謀反人。

きやう

逆心(名)

惡逆を爲す心。

きやう

逆修(名)

普通の順序と反對に佛事を營む事。……子のために父母が冥福を修むるの類。(佛教)

きやう

氣病(名)

氣のせいにて起る病氣。●神經病。

きやう

極(名)

「一」定まり。●決定。「二」定則。●制限。●慣例。

きやう

(自動四段)

「一」定まる。●決定する。「二」慣例となる。

きやう

氣儘(名)

心に思ふ通り自由に振舞ふ事。●我儘。●勝手。△(形)―氣儘なる。(副)―氣儘に。

きやう

技藝(名)

手先にてする仕事。●技術。●藝術。

きやう

貴顯(名)

身分の貴く世に知られたる事。又は其人。

きやう

危險(名)

あやふき事。●あぶなき事。△(形)

きやう

客來(名)

客の来る事。

きやう

客僧(名)

「一」旅行中の僧。「二」特に山伏。

きやう

逆賊(名)

逆臣。

きやう

客來(名)

客の来る事。

きげん

危険なる。(副)―危険に。
紀元(名) 〔一〕建國元年の稱。〔二〕紀元後の略。

きげん

起原(名) 事の起りたる原因。●起り。●始り。
〇紀元二千五百年

きげん

期限(名) 兼ねて定め置く時目。
機嫌(名) 〔一〕人の好くか嫌ふか喜ぶか怒るか

きげん

等を見計らふべき場合。●都合。○徒然「世に徒はん人まづ機嫌を知るべし」〔二〕心持。

●氣分。●氣色。〔三〕身體の様子。●安否。〔四〕氣色のよき事。●好機嫌。

きげんじやう

喜見城(名) 切利天の宮城。(佛教)

きげんせつ

紀元節(名) 我國の祝日三大節の一つ。二月十一日神武天皇御即位記念日。

きふ

寄附(名) 公共の入費の補助として贈る金品。△(動)―寄附す。

きふるす

着舊(他動四段) 衣服など永く着て汚す。

きぶつ

木佛(名) 木製の佛像。

きぶつ

器物(名) うつは。●器械。●道具。

きぶつ

奇物(名) 普通に變りたる品物。

きぶつ

偽物(名) 似せもの。

きぶん

氣分(名) 心地。●氣合。
きぶん 寄聞(名) めづらしき話。

きふう

氣風(名) 氣性。

きふく

起伏(名) 地面の高く起り又低く伏す事。△(動)―起伏す。

きふく

歸服(名) 一度抵抗せしものが心折れて其命令に従ふ事。△(動)―歸服す。

きふく

忌服(名) 服忌に同じ。

きこる

樵(名) 木を伐る事。又は其人。樵(自動四段) 木を伐る。

きこる

氣骨(名) 物事に強き處のある事。

きこん

氣根(名) 辛抱して勤むる力。●根氣。

きこむ

着込(他動四段) 衣服の下に着る。

きこう

氣候(名) 時候。

きかうでん

乞巧奠(名) きつかうでんの略。

きこく

枳殼(名) 木の名。蜜柑の種類にて刺多く實は蜜柑よりも小さくして香氣高きもの。●かたち。

きこえ

聞(名) 人聞。●世評。

きこゆ

聽。聞(自動下二段) 〔一〕おのづから耳に入る。〔二〕譯がわかる。〔三〕人に知らる。

きこゆ

聞(他動下二段) 申す。●申し上ぐる。○源氏

「思ふ事少し聞ゆべきぞ」

きこゆ

(助動下二段) 敬語。「一」申す。○枕「かの君

に語り聞ければ」同「兄のやうにもてなし聞え給へば」「二」奉る。○源氏「大將を始め聞えて御叔父の殿原」

きこみ

着込(名) 鎧の一種。衣服の下に着込むもの。

きこみ

氣込(名) 熱心になる事。●元氣を出す事。

きこしめす

聞食(他動四段) きこしめすに同じ。(古)

きこしめす

聞召(他動四段) 「一」聞き給ふ。「二」めしあがる。●飲食し給ふ。

きこす

聞(他動四段) きこしめすに同じ。

きえ

歸衣(名) 佛教を信仰する事。●佛道に入る事。

きえはふり

△(動) 歸依す。(佛教)

きえかへる

歸依法(名) 真心より佛法に歸依して他の外

きえかへる

法に歸依せざるを云ふ。(佛教)

きえそり

消返(自動四段) 心の消えはつる如く感ずる。

きえそり

歸依僧(名) 真心より僧に歸依して他の外道

きえん

に歸依せざるを云ふ。(佛教)

奇縁(名) 不思議なる因縁。

きえん

氣燄(名) 火燄の如き勢の氣力。

きえぶつ

歸依佛(名) 真心より佛に歸依して他の外道

きでん

天神に歸せざるを云ふ。(佛教)

きでん

氣轉(名) 氣のきく事。●頓智。

きあひひ

貴殿(代) あなた。●お手前。●足下。

きあつ

氣合(名) 氣質。●性分。

きあつ

氣壓(名) 空氣の壓力。

きあわ

議案(名) 議事の草案。

きあわ

忌明(名) 忌中の終る日。●いみわけ。

きあわ

蚶(名) 貝の名。赤貝の古名。

きあわ

象(名) 獸の名。さうの古名。

きあわ

段(名) きだに同じ。

きあわ

(名) 氣障り。(俗)

きあわ

記載(名) 書き記す事。△(動) 記載す。

きあわ

后(名) きさきの音便。(雅)

きあわ

器財(名) 器具。●道具。

きあわ

后腹(名) 皇后の御腹に生れ給ふ事。

きあわ

后町(名) きさきまちの音便。

きあわ

階(名) 高き處に昇り降りする爲めの橋。●

きあわ

段階。●はし。

さきりもち

(名) 葬送の時死人の食を戴きて供する人。(記)

さきくさ

衣更着(名) 二月の異名。●如月。

さきくさ

刻(他動四段) 「一」物を細かに切り分くる。

「二」木を彫りて細工する。

さきくさ

氣散(名) 鬱氣を散する事。●心配を忘るゝ事。

さきくさ

(名) 氣輕なる事。●頑固で無き事。△(形) —

さきくさ

僞作(名) 似せて作る事。●又は其物。

さきくさ

貴様(代) 汝。●其許。

さきくさ

生酒(名) 純粹の酒。

さきくさ

后(名) 皇后。

さきくさ

后立(名) 皇后に立ち給ふ事。●立后。

さきくさ

后町(名) 禁中紫宸殿の北にありたる一區域の地。皇后御所の在るころ。

さきくさ

刻(名) 「一」刻み方。●刻み目。●二段階。●三

さきくさ

時刻。●四場合。●機會。

さきくさ

崩(名) ささす事。

さきくさ

崩(自動四段) めぐむ。●其模様の見ゆる。●

さきくさ

前兆のあらはるゝ。

さき

記紀(名) 我國古代歴史の名。古事記と日本紀との略。

さき

木木(名) 多くの木。

さき

聞入(自動四段) 熱心にて聞く。●深く耳を傾けて聞く。

さき

聞入(他動下二段) 承諾する。

さき

聞惡(形。形狀言々活) 「一」聞き兼ねる。

さき

「二」聞くもいやである。

さき

古吉利利(名) 神樂歌の曲名。

さき

生絹(名) 練らぬ絹。

さき

聞分(他動下二段) 聞きて道理を會得する。

さき

●聞きて善惡を判斷する。

さき

聞學(名) 人より聞きたるのみの學問。●耳

さき

學。

さき

聞書(名) 聞きたる儀を筆記する事。

さき

起居(名) 「一」起つとすわるさ。●おきふし。●二

さき

起居の有様。

さき

綺語(名) 飾りたる言葉。●虚飾

さき

の言語。

さき

桔梗(名) 「一」草の名。莖



眞直にのびて秋の頃紫の花

咲くもの。(二)紋の名。(圖)

きげふ

起業(名) 新に事業を起す事。

きぎやうむすび

桔梗結(名) 紐の結び方の名。桔梗の花の形にしたるもの。(圖)

ききう

絨曲(名) 歌曲の一種。淨瑠璃の一名。



ききく

聞付(他動四段) 聞き入る。●熱心にて聞く。

○源氏「からうじて一言ばかりかすめ給へるけはひいさなつかしげなるにきいづきてしめじめさくるいまでおはす」

ききく

聞付(他動下二段) 漸く耳に聞く。

ききなほす

聞直(他動四段) 「(一)聞き返す。(二)聞きてよき方に思ひ直す。

ききながす

聞流(他動四段) 氣に留めずに聞く。

ききなす

聞成(他動四段) 聞きて然なりと思ひなす。

ききん

饑饉(名) 米穀の不作なる事。

ききん

黄薔(名) 黄なる花の咲く薔。

ききん

聞苦(形。形状言シク活) 聞くも苦しきは

ききて

聞手(名) 「(一)聞く人。(二)聞き分くる人。

ききぎげ

利酒(名) 味の良否を試むる爲めに飲む酒。

ききう

糞裘(名) 親の跡を受け繼ぐ事。

ききふ

危急(名) 最も危き場合に迫りたる事。●生死の分け目。

ききめ

利目(名) 効能。

ききみ

聞耳(名) 「(一)聞かんとして注意する耳。(二)人聞。●外聞。(雅)

ききし

雉子(名) きじの古言。

ききもの

聞物(名) 聞きて面白きもの。

ききす

雉子(名) きじの雅言。

きき

覬覦(名) 野心を以て望むまじき事を願ひ望む事。△(動)―覬覦す。○「神器を覬覦す」

きき

消(他動下二段) 自然に物が無くなる。

きき

灸(名) もぐきに火を附けて皮膚を焼く一種の療法。

ききう

宮(名) 五音の一つ。

ききう

舊(名) 古き事。……新に對して云ふ。

ききふ

級(名) 「(一)階級。●階級。●等級。(二)斬りたる首。

ききふ

給(名) 給金。

ききふ

急(名) いそぐ事。●せく事。●俄なる事。△

(形)―急なる。(又)―急の。(副)―急に。

ぎゆう

義勇(名)

義の爲めに發する勇氣。

きうらほう

舊臘(名)

昨年(名)の十二月。

きうば

弓馬(名)

「一」弓射る事と馬に乗る事と。

「二」武術。

きうはい

九拜(名)

九度拜禮する事。敬禮の最も丁寧なるもの。

きうはのみち

弓馬の道(名)

武士の道。

きうはく

休泊(名)

旅人の休む事と泊る事と。

きうばく

舊幕(名)

舊の幕府の時代。徳川氏の頃を云ふ。

云ふ。

ぎうにく

牛肉(名)

牛の肉。

ぎうににゅう

牛乳(名)

雌牛より搾り取る乳。

きうたう

弓道(名)

弓術に同じ。

きうたう

舊道(名)

以前に往來せし道筋。

ぎうどう

牛痘(名)

牛の疱瘡。種痘の種にするもの。

ぎうち

灸治(名)

灸にての治療。

ぎうちよ

宮女(名)

禁中に宮仕せる女。●女官。

きうちう

宮中(名)

内裡。●禁中。●御所。

きうり

窮理(名)

物の性質を調査し其原因結果を探り究むる事。又は其學問。

きうりがく

究理學(名)

物理學の一名。

きふれりう

給料(名)

給金。

きふりう

急流(名)

流れの早き水。

きうおん

舊恩(名)

遠き以前に被りたる恩義。

きうか

舊家(名)

遠き先祖の代より絶えざる家。

きうか

九夏(名)

夏季三箇月の間。●夏。

きふよう

急用(名)

急ぎて爲すべき用事。

きうたい

袈代。袈袋。宮體(名)

昔し大納言以下參議以上の人にて剃髪したる人の着せし袈束。

指貫に袍の如き重れ衣を着し上に袈袈をかくるもの。

又此衣を素絹

さい

ふ。

△(圖)

及第(名)

試験に合格又は昇級する事。

△(動)―及第す。

舊曆(名)

大陰曆。……太陽曆を新曆とい

きふたい

きうれき

きうれき

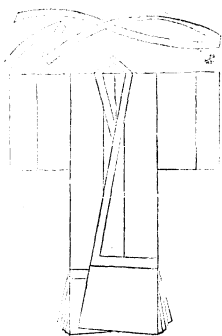
きうれき

きうれき

きうれき

きうれき

きうれき



き キュ うぞく

ふに對して。

九族(名) 先祖より九代の家族。即ち高祖、

曾祖、祖父母、父母、己子、孫、曾孫、玄孫。

ぎ キュ うらく

牛酪(名) 食品の名。牛乳を精製したる脂の如きもの。●ばた。

き キュ ふむ

急務(名) 急に爲すべき務。

き キュ ぶつ

急舞(名) 能樂にて一種の舞曲。極めて早き舞方のもの。

き キュ うつ

窮風(名) 身心の思ふ儘にならぬ事。●不自由。△(形)―窮風なる。(副)―窮風に。

き キュ うくん

舊君(名) 以前に仕へし主君。

き キュ うもくせいし

舊約聖書(名) 舊約全書に同じ。

き キュ うやくせんし

舊約全書(名) 聖書の一つ。世界の創造より基督降誕の豫言まで記載せしもの。(基督)

の。(基督)

き キュ うけい

休憩(名) 休息。●休み。△(動)―休憩す。

き キュ ふかう

急行(名) 急ぎて行く事。●休まずに行

く事。△(動)―急行す。

き キュ うえい

舊詠(名) 舊作の和歌。

き キュ うてん

炎點(名) 炎の場所にしろしをす墨の

點。

き キュ うてん

九天(名) 地球の周圍にある九つの天。(佛教)

き キュ うでん

宮殿(名) 宮と殿と。

き キュ うさく

舊作(名) 以前に作りたる詩文。

き キュ うさく

窮策(名) 苦しき中に廻らす算段。

き キュ うき

舊記(名) 舊き記録。

き キュ うき

舊鬼(名) 貧乏神。

き キュ うけう

舊教(名) 基督教中羅馬教希臘教の總稱。……新教に對して。

き キュ うげふ

休業(名) 業を休む事。△(動)―休業す。

き キュ ふきん

給金(名) 勤めの賃として雇人などに與ふる金。

き キュ ふきふり

急急(副) 大急ぎにて。(又)―急々

に。

き キュ うい

舊友(名) 以前の友人。

き キュ うい

舊遊(名) 以前遊びたる事。●以前にせし旅行。

き キュ ふじ

給仕(名) 「一」目上の人の傍にありて雑役を勤むる事。又は其人。「二」食事の傍にありて飯の盛替などする事。又は其人。

きキユふッし

急所(名) 少しの傷害にて全身に影響を及ぼす極大切な部分。

きキユうじょ

救助(名) 困難の人を救ふ事。△(動)―救助す。

きキユうじやッショウ

宮城(名) 皇居。●内裏。●御所。

きキユうしヤシヨウにら

名。(佛教) 九生如來(名) 大日如來の一名。(佛教)

きキユうじつ

休日(名) 休業の日。

きキユうしん

舊臣(名) 前家臣たりしもの。

きキユうじん

宮人(名) 禁中に宮仕せる婦人。●女官。

きキユうしや

牛車(名) うしぐるま。

きキユうじゅつ

弓術(名) 弓射る術。

きキユうしゅん

九春(名) 春三箇月九十日の間。●春。

きキユうしゅん

牛皮(名) 「一」牛の皮。「二」飴の一種。牛皮に似たる色のもの。

きキユうせん

急病(名) 俄に起る病氣。

きキユうせん

弓箭(名) 「一」弓と箭と。「二」弓射る術。

きキユうせん

九泉(名) 黄泉に同じ。

きキユうせん

弓箭の道(名) 武士の道。

きキユうせき

舊跡(名) 名高き物事のありたる跡。●古跡。

きキユふッす

急須(名) 茶を茶碗につき込む陶製の器。口あり手あり蓋ありて士瓶に似たるもの。

きキユうす

窮(自動サ變) 「一」困る。●困却する。「二」貧しくなる。

きキユふッす

給(他動サ變) 給金を渡す。

きめ

木目(名) 皮膚にあらはれて居る細かき綾。

きめい

極(名) 定め。

きみ

愚明(名) きあけ。●いみあけ。

きみ

公(名) 姓の一つ。

きみ

君(名) 「一」天皇。「二」主人。「三」目上の人を用ふる敬稱。

きみ

黍(名) きびに同じ。

きめ

黃身(名) 雞卵の黃色なる部分。

きみ

氣味(名) 「一」様子。●氣色。「二」心持。

きめ

君(代) あなた。●御前。●貴下。

きみつ

奇妙(名) 「一」不思議。●不可思議。「二」物事のすぐれて居る事。……△(形)―奇妙なる。(副)―奇妙に。

機密(名)

「一」秘密の事柄。「二」希臘教にて重大なる儀式の稱へ。……聖餐、洗禮、結婚の類。

きみつ

黄水(名) 〔一〕溜飲。〔二〕嘔吐を催す時に吐く水。

きみじか

氣短(名) 怒り易き性質。又は其人。●性急。●せつちち。●たんき。△(形)―氣短なる。(副)―氣短に。

きし

吉士(名)

姓の名。

きし

岸(名)

〔一〕陸の水に臨みたる處。〔二〕がけ。

きじ

雉(名)

鳥の名。大さ雞に似て目赤く毛に光澤ありて尾は眞直に長く野山に住みて春の頃鳴くもの。

きじ

記事(名)

〔一〕記録する事柄。〔二〕有りの儘を書きたる文章。

きしろふ

(自動四段)

きしるの延音。

きしほてん

鬼子母天(名)

二十天の一つ。(佛教)

きしほじん

鬼子母神(名)

天然の訥利帝の母。好みて人肉を食ひ鬼の如き行爲なりしを憐み釋迦ある時に其末子嬪伽羅を隠して母子の情愛を悟らしめ導きて佛道に入らしめしといふ人。子を千人持ちたり。後に祭られて佛法守護の神となる。

きしる

軋。轆(自動四段)

〔一〕物と物とが磨れ合ひて

きしかた

(名)

過去。●既往。

ぎしよ

偽書(名)

〔一〕偽り似せて書きたる書類。●偽筆。

きしやシヨウ

氣象(名)

〔二〕作者の名を欺きて書きたる書物。雨の類。

きしやシヨウ

氣性(名)

性質。●氣質。

きしやシヨウ

起請(名)

〔一〕主君へ請願する事。〔二〕約束を結ぶ事。〔三〕起請文の略。

きしやシヨウ

氣象學(名)

學科の名。氣象に關する總べての事を研究するもの。

きしやシヨウ

氣象臺(名)

氣象を觀測する爲めに設けたる臺。

きじやう

氣狀臺(名)

氣體を見よ。

きじやう

生醬油(名)

純粹の醬油。

きしやシヨウ

起證文(名)

神佛に誓ひて書く證文。

きじつ

氣質(名)

性分。●氣合。

きじづかさ

岸司(名)

岸の高き處。

きしん

鬼神(名)

神。

きしん

寄進(名)

神社佛閣の費用を寄附する事。△

(動)―寄進す。

きしむ

(自動四段) きしるに同じ。

きじん

奇人(名) 性質、行狀の普通に變りたる人。

きじん

鬼神(名) 鬼。●惡魔。●魔神。

きしゃ

瀛車(名) 蔡瀛車に同じ。

きしゃ

記者(名) 「一」其文章の作者。「二」新聞紙の筆者。

きしゃ

騎射(名) 「一」馬に騎りながら弓を射る事。「二」

武家にて行ふ騎射の式。……犬追物、流鏑馬、箒懸の類。

きしゃ

喜捨(名) 慈善等のために喜んで物を寄附する

事。△(動)―喜捨す。

きしまひ

吉志舞(名) 上古の雅樂寮の舞曲の名。婚節

舞。(貞觀儀式)

きしき

儀式(名) 一定の作法によりて嚴格に行ふ禮

式。

きしきし

(副) 物と物と磨れ合ふ音。(又)きし／＼と。

きじぎし

奇術(名) 不思議なる術。

きじぎつ

技術(名) 技藝に同じ。

きじゆん

歸順(名) 叛臣が朝廷に歸服する事。△(動)―

きじゆん

歸順す。

きしゅんらく

喜春樂(名) 雅樂の曲名。

きしゅうみかん

紀州蜜柑(名) 蜜柑の一種。紀伊國有

田郡邊より産して最も甘味なるもの。

きしゆく

寄宿(名) 「一」他人の家に身を寄せて寄泊する

事。△(動)―寄宿す。「二」寄宿舎。

きしゆくしゃ

寄宿舎(名) 學校にて生徒の寄泊するところ。●塾。

きしめく

(自動四段) きし／＼する。

きしみち

岸道(名) 岸を通ふ路。

きじじゆう

擬侍從(名) 臨時の官名。即位の式の時選ば

れて侍從の代理を務むる役。

きび

黍(名) 五穀の一つ。團子などに作りて人の食用

きびど

とするもの。

きびわ

紀人(名) 紀伊國の人。(歌詞)

きびわ

幼くてかよわき事。●幼弱。(形)―きびわ

きびわ

なる。○宇治「わかくきびわなる程よては

あり」(副)―きびわに。○散木「昨日まで

きびわに見えし姫百合のいつ立ちなれて人

じみわらん」

きびつ

偽筆(名) 偽り似せて書く事。又は其文字。

きびら

生平(名) 織物の名。十分晒し上げざる布。近

江國の名産。

きびのさけ

黍酒(名) 黍より作りたる酒。

きびき

忌引(名) 忌中の間務を休みて引籠る事。

きびし

嚴(形。形狀シク活) 「一」嚴重なる。「二」烈し。

●強し。●甚し。

きびし

(名) 急須に同じ。

きびす

踵(名) くびす。●かいそ。

きも

肝。膽(名) 「一」臟腑の一つ。右肺の下にありて赤

きせる

煙管(名) 煙草を飲む時に用ふる一種の管。日

本流のは多く竹管に金屬製の雁首と吸口とをほめたるもの。西洋風のは木製、象牙製など種々あり。

きもくり

肝煎(名) 「一」盡力して世話する事。●周旋。

「二」世話役。

きもち

氣持(名) 心の鹽梅。●心持。

きもだましひ

肝魂(名) 肝の「二」を見よ。

きもん

鬼門(名) 「一」陰陽家にて忌むべき方角の稱

へ。「二」特には良の方角。

きもん

疑問(名) 疑はしき問題。

きもむかふ

肝向(枕) 心の枕詞。

きもの

着物(名) 身に着るもの。●衣服。

きせい

歸省(名) 父母など見舞ふため寄留地より暫く

きせい

寄生(名) 故郷に歸る事。△(動)―歸省す。他の生物に身を寄せ其養分を吸収して生活する事。△(動)―寄生す。

きせい

祈誓(名) 神佛に誓ひを立て、祈る事。●祈願。

きせい

△(動)―祈誓す。

きせい

基聖(名) 基の名人。

きせい

犠性(名) 「一」いけにへ。「二」其物に力を盡す

爲め一身を擲つ事。

きせる

煙管(名) 煙草を飲む時に用ふる一種の管。日

本流のは多く竹管に金屬製の雁首と吸口とをほめたるもの。西洋風のは木製、象牙製など種々あり。

きせわた

着綿(名) 菊の着せ綿を見よ。

きせつ

氣絶(名) 俄に生氣を失ふ事。△(動)―氣絶す。

きせつ

義絶(名) 親類附合を絶つ事。△(動)―義絶す。

きせな

着背長(名) 武具の名。腹巻、胸丸などの製に

きせん

對して普通の鎧を云ふ。

きせん

流船(名) 蒸氣船に同じ。

きせん

貴賤(名) 貴き事と賤しき事と。●貴き人と賤

きせん

しき人。

きせん

喟然(副) 歎息する有様。(又)―喟然と。

きせき

奇蹟(名) 〔一〕普通と異なりたる事蹟。●奇人

きす

鱈(名)

の履歴。〔二〕不思議なる業跡。〔基督教〕
魚の名。色薄白く口尖りて體に小き黒
點多きもの。食用とす。

きす

着(他動サ變)

着さする。●着しむる。

きす

記(他動サ變)

しるす。

きす

期(自動サ變)

期限を定めて約束する。●心に約
して待つ。

きす

歸(自動サ變)

落付が定まる。

きす

生酔(名)

純粹の酔。

きす

疵(傷)(名)

〔一〕身體器物などの一部を破る事。又
は其跡。〔二〕物事の欠點。

きす

議(他動サ變)

評議する。

きす

擬(他動サ變)

似て實物と同じ様にする。●模擬する。
〔一〕あてがふ。●れらふ。〔二〕眞

きす

氣隨(名)

氣儘。●我儘勝手。△(形)―氣隨な
る。(副)―氣隨に。

きす

奇瑞(名)

不思議にめでたきしるし。

きす

奇數(名)

二分して片端の出づる數。……一、
三、五、七の類。

きす

有の儘にて飾なき事。●つんしゃんとする

きすくび

事 ●まじめなる事(形)―きすくなる。(副)
―きすくに。○源氏「人いかに取りなしけん
ときすくに書き給へり」同「僧都僧正の際は
世に暇なくきすくにて」
(名) きすくなる人。(源氏)

